

第1回（5月9日）

【議題】

学校と家庭・地域とのより良好な関係づくりについて

【主な意見（要点）】

- 教員と保護者はパートナーという原則をもって対応し、多くの事案は対話的に解決されている。学校・保護者・地域が対話をしながら理解し合い、信頼関係を築くことが大切である。子供を中心に考える視点が何よりも大切。
- 何か生じたときの、チームとしての対応のあり方を議論すべき。
- 保護者からの要望等に対し、管理職は本質的かつ持続可能な対応を目指すべき。
- あらかじめどのような対応をするかルールを決め、保護者・地域と共有しておくことが重要であり、無理な運用にならないよう不断の見直しが必要である。
- 保護者等との良好な関係づくりの議論が、結果として学校現場の安全を保障することにつながるのではないか。

第2回（6月17日）

【議題】

教職員からのヒアリング

【主な意見（要点）】

- 社会や学校の環境が変わる中、解決が困難な保護者対応のケースが増加している。学校現場においては、受容と傾聴を基本に対応しているが、課題を共有・解決していくための体制づくりや、指針となる基準やルールを示すことが必要になっている。
- 学校と保護者との関係のみならず、地域を含めた課題として捉えていく必要がある。
- 学校と保護者等の当事者同士での解決が困難な事案については、第三者によるサポートが必要である。スクールロイヤーのような弁護士が、課題の整理や法的な助言等、学校を支援する対応が重要である。

第3回（8月29日）

【議題】

保護者からのヒアリング

【主な意見（要点）】

- コロナ禍による関係の希薄化、保護者の多様化や教員の多忙化等により、コミュニケーションの不足や学校の実態が見えにくいという状況が強まっている。
- より良好な関係を築いていくためには、十分な情報共有と迅速な対応を行うための仕組みを整え、教員と保護者だけでなく、学校に関わる多様な人材や地域をも巻き込みながら、相互理解を深めていくことが大切である
- 過度な要求等に対しては、あらかじめ、学校としての責任や保護者との対応の在り方等について、保護者や社会に示しておくことが必要である。

第4回（11月6日）

【議題】

地域関係学識経験者からのヒアリング

【主な意見（要点）】

地域社会の変化と学校との関係

- 地域社会は、組織・団体への「所属」から、緩やかな居場所や人をつなぐ仕組みである「接続」へと変化している。学校と地域との関係にも変化が生じており、地域学校協働を進めるには、子どもを中心に学校・家庭・地域が対話する機会をもつことが重要であり、その関係を支える「つなぎ手」の存在も重要となる。

地域社会の変化と学校との関係

- 外国人保護者や日本語指導を必要とする児童は増加しており、言語や学校制度への理解不足、コミュニケーションの難しさが見られる。こうした状況には、保護者と教員が丁寧に対話し認識をすり合わせることも重要であり、教員だけで抱え込まず、チームアプローチで支援にあたることが求められる。